

# 友松会だより

平成25年度総会 報告号 2013.7.8 発行

発行責任者 会長 芦川 弘

平成25年6月30日(土曜日)

会場：相模原南市民ホール

懇親会場：ホテルセンチュリー相模大野

総会参加者 206名

大会スローガン「友松会の基盤強化の具体化と  
大学とのさらなる連携を図ろう」

## ○平成25年度 友松会総会次第

### 第1部 総会

- ・開会のことば ・国歌斉唱 ・物故者への黙祷
- ・会長挨拶 ・退任役員への感謝状贈呈
- ・卒寿を迎えられた会員への記念品贈呈
- ・松沢研究奨励賞贈呈 ・来賓祝辞 ・会務報告
- ・閉会のことば(次期開催地横浜)

### 第2部 講演会

- ・開会のことば並びに講師紹介  
演題「はやぶさ・宇宙・未来」  
講師 的川泰宣氏(宇宙航空研究開発機構名誉教授)
- ・花束贈呈 ・お礼のことば

### 第3部 懇親会

- ・開会のことば ・実行委員長挨拶
- ・来賓祝辞 ・乾杯 ・歓談
- ・新会員紹介 歓迎のことば ・校歌 学生歌合唱
- ・万歳三唱 ・閉会のことば

## ○芦川 弘 会長挨拶 (要旨)

本日は国大鈴木学長・高木学部長をはじめ多数の来賓の方々を迎え総会が開催できることを心から感謝申し上げます。

友松会は、今年発足から125年を数えます。国大の卒業生



挨拶する芦川会長

は、県下はもとより全国で活躍してまいりました。しかし、平成になり学部改変があり、教育界に進む卒業生が少なくなり、民間企業に進む卒業生が多くなりました。また、大学機構改革により学校教育課程と人間文化部の2課程になり、他の課程は工学部の一部と一緒に理工学部となりました。このように教育人間科学部は新たな舵をとり大きな変革を遂げたといえます。

友松会は状況を十分に理解し、長い間培われたものを大事

にしなが、教育人間科学部の卒業生を温かく迎えて、望ましい活動を展開していかなければならないと思います。

そのために、二つのことを考えています。

① 「支部活動の活性化を図る」

② 「大学との連携を強化する」

昨年度から、大学、友松会、富丘会、工学部連合4者で「横浜国立大学校友会」の設立を目指して準備委員会を立ち上げました。平成26年4月に設立し、学内に校友会館を設ける予定です。

同窓会の視点からいけば、学生に大学在学時から横浜国大生であるという意識を持ち、かつ、その意識を育て、それを同窓会に引き継いでいくことをねらいにしています。さらに、校友会組織とはことなりますが、大学付属図書館と同窓会連合と連携し、顕著な業績を残された卒業生の足跡を、学生が概観できる場としての「YNUプラウド文庫」の設立が決まりました。

来る10月26日には、ホームカミングデーが開催されます。友松会は「豊かな教育を語る会」を当日開催します。大勢の方々の参加を期待しております。

最後に、会員の皆様のご健康とご多幸を祈念し、また、ご出席の方々に感謝申し上げます。

## ○来賓あいさつ (要旨)

### 横浜国立大学 鈴木邦雄学長

若い新しい芦川会長の元で総会が盛会でありますことをお祝い申し上げます。

先週初め、日経新聞で高い評価を戴いた。全国の学生に



鈴木学長挨拶

【大学生活の満足度や就職支援等】のアンケートを取った結果、横浜国大は全国で第2位になった。86校の国立大学、全部で783校有る大学の中で評価を受けた。これは学生センターが大学のド真ん中に有り、学生の厚生、相談等、就職支援等は同窓会の支援に依るところが大きい。

今年度4月から社会科学国際科学研究所が完成しました。先生方の組織を国際社会科学研究所、学生の組織を国際社会科学と言う名称にし、中身の充実を図るとともにグローバル化と言うことで英語教員学士の単位が取れるよう努めます。

海外から日本を紹介した日本人として有名な岡倉天心、一昨年の大震災によって流された五浦(いづら)海岸の六

角堂が、先日再建されました。実は角蔵（岡倉天心）は、150年前にこの横浜で生まれています。家は中区本町に有り、福井藩で外国人相手の生糸商売をしていました。そのため店先で英語を習得し、京急の神奈川のそばに有った寺の宣教師等に英語を学び、同時に日本の文化芸術と言うものを学んだとされています。

天心はその後、今の東京芸術大学長やボストン美術館の部長になったり、国際理解の色々とパイオニア的なグローバルな活躍をした人の一人で、その方が横浜で生まれ育ったということ踏まえ、若い人々に天心の生き方、生き様というものを教え、次世代に色々育てたい。横浜から世界に向けて活躍する人材が増えてくれればと思っています。

それからもう一件は、友松会には色々お世話になっていますが、昔学芸学部を卒業された方から、多額のご寄付を戴きました。奨学金として毎年1,000万円30年間にわたって戴くことになりました。これに関しましては返済義務のないような形で学生に奨学金を2年から3年にわたって与える形になっております。

最後になりますが、本学の教育研究、あるいは社会貢献にご理解いただき、本日の大学との連携をこの総会のテーマにして戴いておりますが、友松会のみさまに於かれましてはご支援・ご鞭撻を賜って横浜国大を益々着実に発展させたいと思いますのでご支援、引き続きよろしくお願いたします。

## ○記念講演

### 演題「はやぶさ・宇宙・未来」

講師 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)  
名誉教授 的川泰宣氏



講演をする的川泰宣氏

での、子どもの心に火をける教師育成の取組みを紹介。

講師紹介で、相模原市は、本年、「はやぶさウィーク」のイベントを企画し、6月13日「はやぶさの日」に、小中学校全校で「はやぶさ給食」を提供、また、「さがみ風っ子教師塾」（塾長は的川先生）

### <講演要旨>

はやぶさの成功は、恩師であり先駆者である糸川英夫先生の研究の集大成と言える。敗戦で自信を失った日本、特に若者を元気づける夢のあるプロジェクトとして研究が始まり、若いエンジニアと科学者が参加。先生のリーダーシップ、発想のユニークさ、参加者の高い目標意識が成功につながった。

はやぶさは、度重なる危機を乗り越え、7年間の旅から帰還した。研究者は好きなことには、アイデアを出し、あきらめない。はやぶさの成功は、日本の物づくりの自信となった。当時の日本は「適度な貧乏」であったことも幸いした。

### <的川先生作詞の歌

「未来をのせて—はやぶさの軌跡」を聴く>

隕石落下等への子どもの感想は多様で、この多様性に学習の契機がある。科学の心の芽生えは、幼少期にあり、子どもの疑問への親の瞬時の対応が大切。家庭の教育が大事である。

学校・家庭・地域が支え合えないかと、全国で「宇宙の学校」を開催している。宇宙と生命は、響き合うものがあり、日本人はそれを感じ取るセンスのある民族である。宇宙といのちを見つめる科学が輝きを増す時代に、わが国がその拠点になればと願う。相模原市は、宇宙教育の拠点にふさわしいと感じる。

◇ 講演後、「的川先生は、少年の心をもって話をされるので、心にしみる。日本人は、宇宙科学への誇りを持ってよいと確認でき、子ども達を育てる勇気をいただいた。」と謝辞。

◇7月、相模原市立博物館にて、はやぶさの持ち帰った小惑星の微粒子を公開。JAXA 相模原キャンパスでは、実物大のロケット、人工衛星の模型を常時展示。

## ○懇親会 【潤水都市 相模原市へようこそ】

友松会総会第3部は、ホテルセンチュリー相模大野を会場に、約170名の出席者のもと、定刻午後1時に開会した。

本年度、人間教育科学部に入学した学生数は230名で、神奈川県以外の学生が6割を占めている。卒業後に各学校のチーフとなるような人材の育成に努めている。



【高木まさき人間教育科学部長談】

現在、わが国は、少子高齢化を迎えているが、何事にもチャレンジする好機ととらえている。自由な気持ちをもって、チャレンジしてほしい。【宇宙航空研究開発機構・的川教授談】



会場の様子



新会員紹介

最後に学生歌を合唱し、来年6月28日の横浜での再会を約し、解散した。